



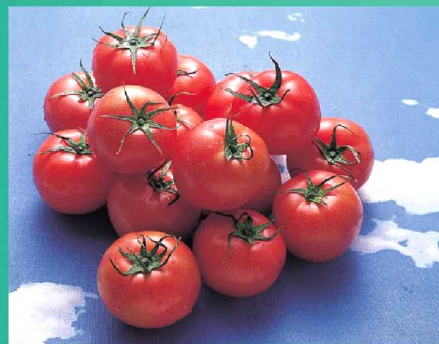
中遠の農林業

AGRICULTURE
AND
FORESTRY
OF CHUEN

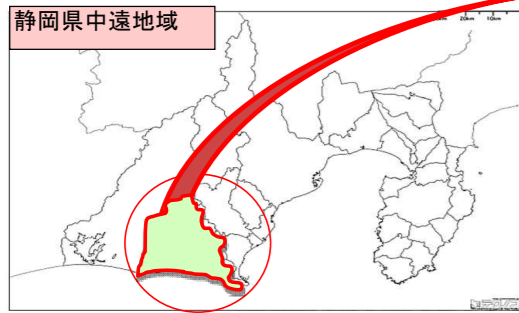
静岡県中遠農林事務所



豊かなる自然 実りある大地 大いなる未来へ



中遠農林事務所管内の農畜産物の生産状況

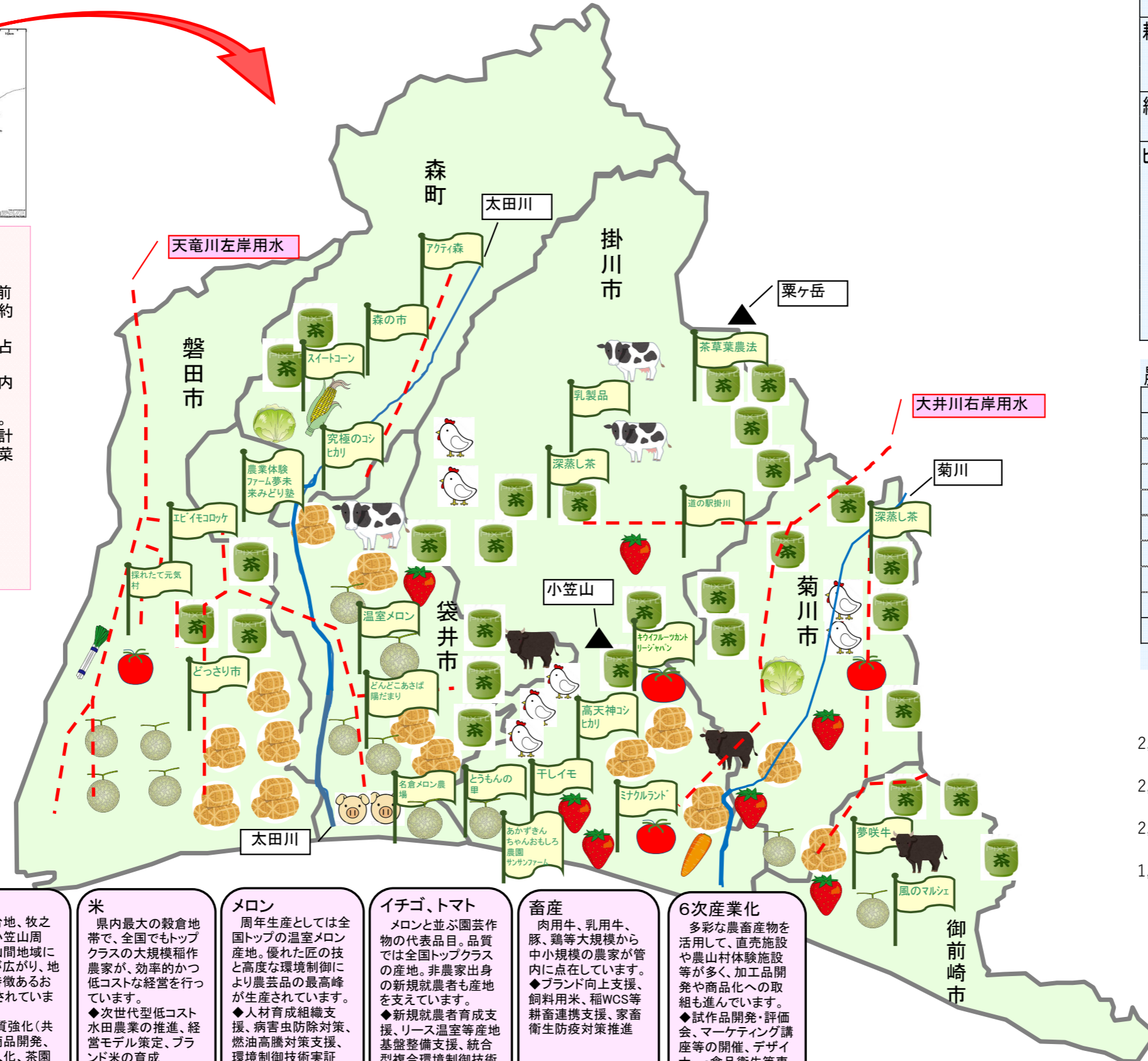


中遠農林事務所管内（5市1町）

管内は、磐田市、掛川市、袋井市、御前崎市、菊川市、森町からなり、総面積は約8.3万haで全県の11%を占めています。耕地面積では田の面積が県内の40%を占めています。農業産出額は県全体の21%を占め、県内有数の農業地帯であり、大規模な経営体（ビジネス経営体）が多数育っています。県全体に占める中遠管内の割合（R3推計産出額）は、米が39%、お茶が37%、野菜が28%と県内シェアが大きい。

管内人口：465,839人（県内シェア 13%）
 総農家数：8,846戸（県内シェア 17%）
 耕地面積：17,710ha（県内シェア 28%）
 うち田：8,628ha（県内シェア 40%）

1つ概ね5億円程度



茶
磐田原台地、牧之原台地、小笠山周辺、北部山間地域に広く産地が広がり、地域ごとに特徴あるお茶が生産されています。
◆経営体質強化（共同摘採、商品開発、輸出、法人化、茶園集積）モデル成果波及

米
県内最大の穀倉地帯で、全国でもトップクラスの大規模稲作農家が、効率的かつ低コストな経営を行っています。
◆次世代型低コスト水田農業の推進、経営モデル策定、ブランド米の育成

メロン
周年生産としては全国トップの温室メロン産地。優れた匠の技と高度な環境制御により農芸品の最高峰が生産されています。
◆人材育成組織支援、病害虫防除対策、燃油高騰対策支援、環境制御技術実証

イチゴ、トマト
メロンと並ぶ園芸作物の代表品目。品質では全国トップクラスの産地。非農家出身の新規就農者も産地を支えています。
◆新規就農者育成支援、リース温室等産地基盤整備支援、統合型複合環境制御技術活用支援、新品種導入支援

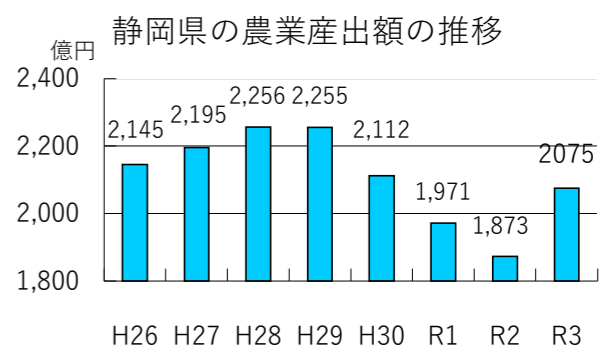
畜産
肉用牛、乳用牛、豚、鶏等大規模から中小規模の農家が管内に点在しています。
◆ブランド向上支援、飼料用米、稲WCS等耕畜連携支援、家畜衛生防疫対策推進

6次産業化
多彩な農畜産物を活用して、直売施設や農山村体験施設等が多く、加工品開発や商品化への取組も進んでいます。
◆試作品開発・評価会、マーケティング講座等の開催、デザイナー・食品衛生等専門化派遣

項目	県	中遠	中遠シェア
耕地面積(ha)	62,800	17,710	28%
R2	田	8,628	40%
	畑	9,082	22%
総農家数(戸)	50,736	8,846	17%
R2 販売農家数	24,426	4,642	19%
ビジネス経営体数	406	123	30%
R2	茶	55	45%
	米	9	50%
	野菜	37	31%
	花き	8	33%
	果樹	0	0%
	畜産	13	13%
その他	1	8%	

品目	県	中遠	中遠シェア
米	1,623	634	39%
野菜	5,915	1,676	28%
果実	2,825	76	3%
花き	1,234	97	8%
茶	1,470	541	37%
その他作物	1,118	193	17%
畜産	5,361	746	15%
加工農産物	1,207	444	37%
計	20,753	4,407	21%

※合計値は内訳計と合致しない



静岡県中遠農林事務所
 〒438-8558
 磐田市見付3599-4
 電話：0538-37-2262（総務課）

（西部家畜保健衛生所）
 〒431-3111 浜松市東区中郡町392
 電話：053-434-2921

中遠地域の概要

■ 中遠地域の特色

中遠地域は、磐田市・掛川市・袋井市・御前崎市・菊川市・森町の5市1町からなり、総面積は、83,213haで全県の11%を占めています。

地理的には、北部に赤石山脈に連なる森林地帯、東部に牧之原台地と小笠山、西部に磐田原台地を抱える一方、天竜川等の一級河川が流れる平野部は、県内最大の広さを有し、南部は遠州灘に沿って約40kmの海岸線に面しています。

交通面では、東京と大阪の中間地点にあり、東名高速道路や新東名高速道路、東海道新幹線等の主要幹線が横断し、御前崎港を活用した海上物流など、流通基盤に恵まれた地域です。

産業は、自動車、オートバイ、電子機器等を中心とした第2次産業のウエイトが高く、製造品出荷額が県全体の約5分の1を占めています。

■ 中遠地域の農業

農業は、耕地面積が17,710ha(田8,628ha、畑9,082ha)で県全体の28%を占め、静岡県の食を支える地域となっています。

米、茶は県内生産量の約3分の1以上を占めているほか、平野部では県内の約8割の産出額を上げる温室メロンをはじめ、イチゴ、トマト、鉢物・切花等の施設園芸や、シロネギ、レタス、ニンジン等の露地野菜生産、大規模な養豚・養鶏、耕種部門と連携した酪農・肉牛生産も盛んに行われています。また、県内一の穀倉地帯として、水稻・麦・大豆を組み合わせた大規模水田農業が営まれています。

■ 中遠地域の森林・林業

中遠地域には、29,385haの森林があり、地域総面積の35%を占めています。

上流域の森林は、水源のかん養や土砂の流出防備などの役割を担っています。この半数を占めるスギ、ヒノキの人工林では、林業による木材生産が行われています。

海岸線沿いにはマツを主体とした海岸林が分布し、潮、風、砂の害から住宅や農地を守っています。小笠山や牧之原・磐田原台地などに広がる里山は、身近な森林として環境教育やレクリエーションなどに活用されています。



中遠は「農の食材の王国」

お茶の主要産地

■ 中遠地域の茶生産の特徴

中遠地域は台地や山間地を中心に茶園が広がり、茶園面積は県全体の35%、荒茶生産量は40%を占めています。

平坦で大区画に整備された茶園では、乗用型茶園管理機を駆使した茶の生産が行われています。共同茶工場では、茶園管理や摘採作業の共同化により、効率的な茶生産に取り組んでいます。

また、掛川市や菊川市では、茶園の畝間に刈り取ったススキやササ等を敷く「茶草場農法」が行われており、平成25年に世界農業遺産に認定されました。

■ 多様なお茶づくりの取組

多様化した消費者の需要に対応するため、「つゆひかり」等の新品種の導入や、かぶせ茶・てん茶等の被覆栽培に取り組んでいます。また、紅茶・半発酵茶や、上品で甘い花の香りをもつ新たな緑茶等の製造も行われ、お茶の需要拡大に取り組んでいます。



静岡の穀倉地帯

県内の約40%にあたる約8,600haの水田が広がり、3万トンのお米を生産する穀倉地帯です。近年は、地域の担い手として、100haを超える大規模な稲作経営体が育っており、地域の水田農業を支えています。

■ 効率的な米生産

大型機械の導入や水田の集積、大区画化により稲作の大規模化が進むとともに、近年はICTを活用した水管理やドローンによる農薬散布、生育診断等の試験への取組が始まっています。

■ 売れる米づくり

地域のオリジナルブランド米として「高天神こしひかり」や「味自慢こしひかり」、「歓喜の風」、遠州森産「究極のコシヒカリ」などが栽培され、各地で売れる米づくりが行われています。

■ 持続的農業をめざして

みどりの食料システム戦略に沿って、地球温暖化防止の観点から、水田におけるメタンガスの削減に取り組み、秋耕作業が広がり始めています。



農芸品を育む園芸王国

■ 世界最高級メロンを周年供給

世界最高級の静岡温室メロンの80%は中遠地域で生産されています。上品なおいしさと美しい網目模様を生み出す栽培技術は、長年の経験と職人技に支えられた、静岡の農芸品の代表的な品目です。近年は、アメリカへの輸出にも取り組み、天敵を活用したIPMにも取り組み始めています。



▲隔離ベットによる栽培



▲フェンロー型温室による大規模栽培

■ 省カイチゴ栽培

中遠地域は県内最大のイチゴの産地で、品質は全国でも高い評価を受けています。近年は腰を曲げずに栽培管理ができる高設養液栽培の導入が進んでいます。また、パッケージセンターや選別ラインを整備することで、出荷調整作業にかかる生産者の負担を減らしています。

担い手の確保に向けても、自立就農を支援する「がんばる新農業人支援事業」の研修対象作目に設定されています。

最近では、ハウス内の環境を制御するシステムを活用したスマート技術を活用し、良質ないちごづくりを行っています。



▲新パッケージセンターでの出荷調整



▲省力的な高設養液栽培の管理作業

■ 新しいトマト栽培技術

中遠地域は全国でも高く評価されるトマトの産地であり、自動選果施設もリニューアルされ、さらに出荷調製作業の軽減が図られるようになりました。

また、隔離床栽培におけるハイワイヤーを用いた長段採り栽培や、株の給水量を把握できるハンモック栽培など、新たな栽培技術にも取り組んでいます。

さらに、環境制御システムなどのスマート技術を活用した栽培にも取り組んでいます。



▲リニューアルされた自動選果施設



▲トマト隔離床栽培

■ 暮らしを彩る花・緑

中遠地域は県内有数の花き産地であり、大規模なビジネス経営体も数多くあります。切花はバラの生産が多く、その他、トルコギキョウや鉢物等も栽培されています。

導入が進んだヒートポンプ等を活用し、環境制御による高収量・高品質な生産を進めるとともに、多彩なオリジナル品種の育成による売れる商品づくりが進められています。

バラ及び鉢物栽培 ▶



■ 太陽をいっぱい浴びた健康野菜

中遠地区は豊富な日射量、冬季の温暖な気候を生かした露地野菜の産地となっています。シロネギやエビイモ、キャベツ、レタス等の栽培が盛んで、メキャベツや春ニンジン、石川小芋も特産品となっています。

シロネギは、育苗・定植・収穫・調製作業をJAに委託し、機械化一貫体系による省力化を推進しています。

全国一の生産量を誇るエビイモは、新規就農者向けに講習会を開催するなど、産地を維持するための担い手の確保に取り組んでいます。

森町などの水田では、冬期にレタス、その後スイートコーン、水稻が栽培され、「水田を3倍活用する農業」が展開されています。レタスでは生育予測に基づく産地情報の発信を行い、有利販売に繋がっています。



▲シロネギ収穫作業



▲レタストンネル栽培



▲エビイモ担い手育成講習会とエビイモ



▲ 石川小芋



▲ メキャベツ



▲キャベツ栽培の様子

食の都づくり

■ 農山漁村発イノベーション サポートセンター

農林事務所に農山漁村発イノベーションサポートセンターを設置し、中小企業診断士等の専門企画推進員による相談対応や、マーケティング、商品開発等の専門家の派遣により、6次産業化の計画策定から事業化まで支援しています。

また、農業団体、商工団体、行政機関が参画する中遠地域農山漁村発イノベーション推進連絡会を開催し、農業・商工の各々の情報交換を図るとともに、農業者と商工業者とのマッチングを推進しています。



専門家派遣の様子

■ 新商品の開発・販売

地場産品の知名度及びブランド力向上のため、「しずおか食セレクション」「ふじのくに新商品セレクション」への出品、ふじのくに総合食品開発展などの商談会への出展を支援し、新たな商品の開発と販路の開拓を推進しています。



地域特産物を活用した新商品開発

■ 地産地消、食育活動

管内にはJAファーマーズマーケットやグリーン・ツーリズム施設併設の直売所が数多くあり、安全・安心な地域農産物を求める消費者に支持されています。

食の都づくり仕事人を中心に、食品を扱う実需者や学校給食でも地域農産物を使用する動きが盛んで、地産地消が確実に進んでいます。

また、高校生による学校給食コンテストの開催などを通じ、子供の頃から地場産品に愛着を持ち、地域のすばらしさを知る機会を提供しています。



地域農産物直売所



食の都づくり仕事人による
地元食材の活用講習



高校生による
学校給食コンテスト

■ 食の安全、安心

安心と信頼を確保する生産過程で生産されたことを県が認証する「しずおか農林水産物認証」やJGAPなどの取得が進んでおり、安全・安心な農畜産物の生産が積極的に取り組まれています。



担い手の育成

認定農業者

中遠地域では、約1,200戸の認定農業者が中心となり、多種多様な産地を支えています。
農林事務所は、認定農業者の経営改善計画の策定や計画実現に向けた支援をしています。

新規就農者

農業従事者の減少と高齢化が進む中、イチゴやトマトなどで新規就農した方が、産地を支える重要な担い手となっています。
農林事務所は、産地と連携を図りながら、新規就農者の育成、支援に取り組んでいます。

ビジネス経営体

雇用を活用し、マーケティング戦略に基づく企業的な経営感覚で農業経営を行う法人（ビジネス経営体）が、経営規模の拡大を進め、地域の農業を牽引しています。
農林事務所では、マネージメント講座を開催するなど、ビジネス経営体を目指す農家を支援しています。



補助事業で整備した
新規就農者のハウス



がんばる新農業人支援事業による就農者

交流促進

グリーン・ツーリズムの推進



農山漁村の活性化と都市住民との交流を目的としたグリーン・ツーリズム。体験農園や直売所、海、山、歴史資産など豊富な地域資源を活かし、交流人口の拡大を図っています。

都市農山村交流

農業や農山村文化の情報発信や体験交流を行い、来訪者の心が温まり、地域住民が誇りを感じられる、豊かな“ふれあい”を創造しています。



稲刈り体験



観光ブルーベリー園

安定した畜産経営を目指した取組

■ 耕作放棄地を活用したコントラクターとTMRセンター

生乳生産量が県内第2位である管内の酪農組合が、組合員の経営安定のため、コントラクター（酪農家に代わって自給飼料を生産する組織）を設立しています。コントラクターは、耕作放棄地となっている農地を調査したうえで地主と利用権設定し、播種、除草、収穫、堆肥散布によるほ場の管理等を行っています。

また、当該酪農組合はTMRセンター（牛の給食センター）を設立しています。TMRセンターでは、コントラクターが生産した青刈とうもろこしサイレージや濃厚飼料のほか、豆腐粕やジュース粕等のエコフィードを混合し、安価で良質なTMRを酪農家の庭先まで提供しています。



▲耕作放棄地



▲とうもろこし作付け



▲とうもろこし収穫



▲牛舎でのTMR給与

■ 耕畜連携

地元のレタス農家へ堆肥を供給するために立ち上げられた森町の堆肥利用組合は、JAレタス部会と畜産農家で構成されています。この連携によって、レタス農家は安定した堆肥の供給を受けることができ、畜産農家では堆肥運搬の手間軽減が実現できました。生産される堆肥は、大部分がレタスほ場に使われていますが、レタスのシーズン以外には、茶園や水田、家庭菜園等にも使われています。

直線攪拌型堆肥舎 ▶



■ 静岡県独自の最高級品質豚（フジキンカ）

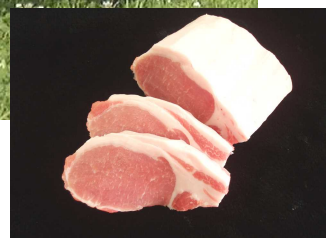
静岡県畜産技術研究所中小家畜研究センターが平成19年度に開発した「フジキンカ」は、中国浙江省から譲り受けた肉質の良い「金華豚」と、県で育成した産肉性の高い「フジロック」を交配した高品質銘柄豚です。

フジキンカは、金華豚由来の柔らかい肉質と甘みがある脂肪、フジロック由来の産肉性を持っています。特有の毛色遺伝子をDNA鑑定することで一般豚との判別が可能です。

県内では「フジキンカ」として4つのブランドがあり、中遠農林管内では「金豚王」と「いきいき金華」の2ブランドが生産されています。



▲フジキンカ ▶



家畜の健康を守り、安全・安心な畜産物を提供

農場HACCP認証

農場HACCP認証制度の普及・推進・支援に積極的に取り組んできた結果、2016年に管内酪農場が1戸、2019年に管内養豚場が養豚場としては県内初の農場HACCP認証農場となりました。農場HACCPとは、食品工場における微生物の危害をコントロールする手法を取り入れた、畜産農場における衛生管理対策です。農林水産省が定めた基準に基づき、農林事務所、畜産技術研究所等のサポートの下、民間機関による認証が行われます。



▲農場HACCP認証を取得した養豚場（外観）

危機管理体制の強化と関係者、関係団体との連携

静岡県では、豚熱や高病原性鳥インフルエンザ等の発生に際し、速やかに初動体制を確立し、実効性のある危機管理対策を円滑に実施できるよう、全庁を挙げて取り組んでいます。具体的には、防疫指針・防疫対策マニュアル等の整備、防疫訓練の実施、防疫資材の備蓄、関係業者・団体（建設業協会、ペストコントロール協会、高圧ガス溶材組合、バス協会、トラック協会、産業廃棄物協会、日本建設機械レンタル協会等）との協力協定締結等を行っています。



◀ 処分家畜を想定した埋却演習



車両消毒演習▶

飼養衛生管理基準の遵守と家畜伝染病予防

中遠農林管内では、乳用牛が約2,500頭、肉用牛が約3,600頭、豚が約26,000頭、採卵鶏が約1,393千羽、肉用鶏が約316千羽が飼養されています。家畜の所有者は、農林水産大臣が定めた「飼養衛生管理基準（家畜の飼養に関する衛生管理方法）」を遵守し、家畜伝染病の発生予防を行っています。家畜保健衛生所では、家畜所有者に基準遵守のための指導や家畜伝染病の発生予防のための検査を行っています。



▲家畜の所有者への指導▲



▲検査室での精密検査▲



▲鳥インフルエンザ検査



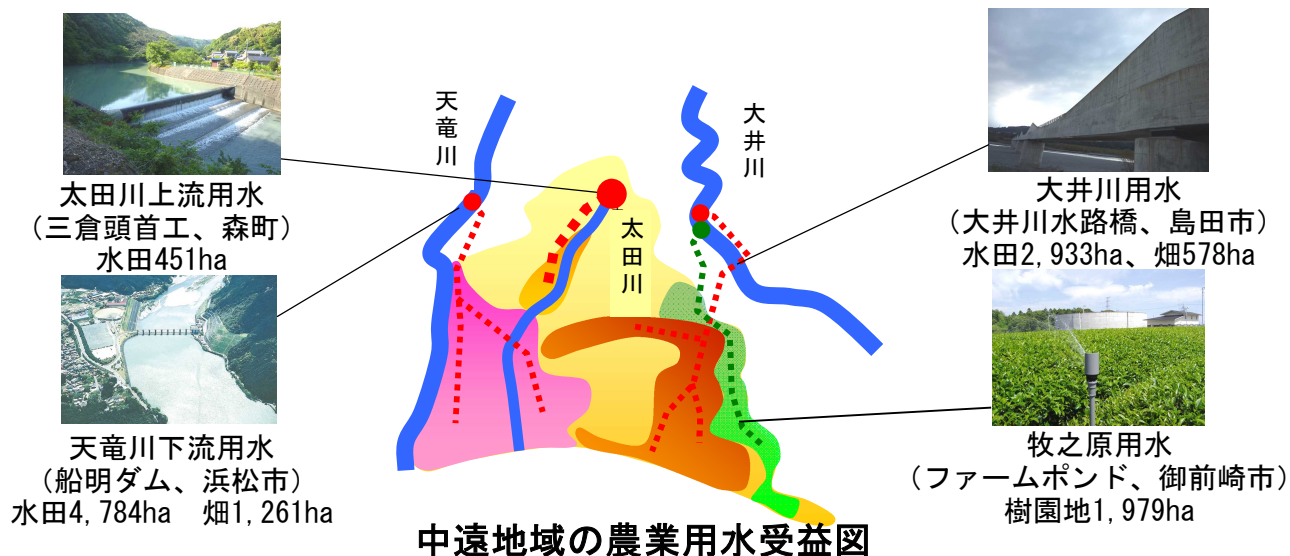
▲牛の採血

ふじのくに美しく品格

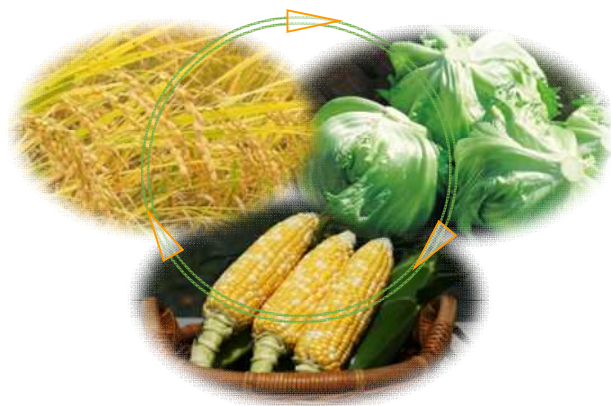
農の営みを支える戦略的な生産基盤づくり

■ 産地収益力を強化する基盤整備の推進

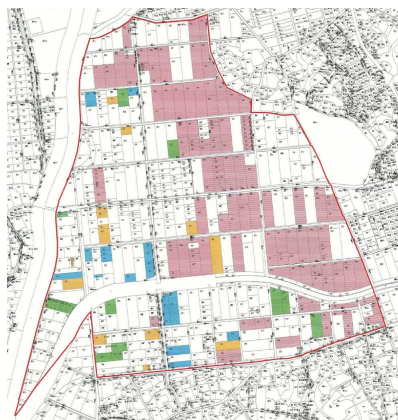
- 管内では大井川用水、天竜川下流用水など大規模な農業水利事業に早くから取り組み、その用水を活用することで安定的な農産物の生産が可能となっております。これらの施設は老朽化や導入作物の変化等により更新、高機能化が必要となっており、農林事務所は将来の営農を見据え、迅速かつ適正に更新、高機能化整備を進めています。



- 水利施設整備による用水の安定供給と農地整備による高収益作物等の生産拡大
→ 水田の3倍活用

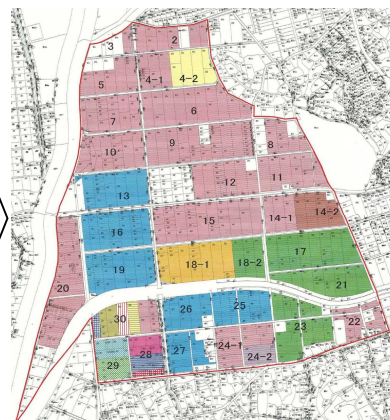


- 農地集積・集約化を加速する基盤整備



大井川用水河東地区

- 生産基盤整備事業の計画策定時に中間管理事業を導入し集積促進
- 地域集積協力を事業費の地元負担金に充当し農業者の負担軽減
- 老朽化した用水路をパイプライン化(高機能化)



のある農村の創造

農の暮らしを育む多様な邑づくり

■ 関係人口の拡大による農村集落機能の強化

農の周りに人がいる！

- ・実直な営農が美しい農村景観を維持します。
- ・「農」を中心に様々な人が集い、新たな農村協働力を生み出します。
- ・新たな農村協働力が、地域農業を支え、地域の将来を自ら考え行動するコミュニティへと発展していきます。
- ・子供の内から「農」に関わることで、次世代の担い手を育成します。



美しく保管理されたレタス畑（森町谷中）



棚田保全活動（菊川市上倉沢）



ふじのくに美農里プロジェクト（袋井市今井）

■ 農地・農業用施設の防災・減災対策による県土強靱化

- ・管内には、県内の約70%の農業用ため池があります。ため池の耐震性の不足は受益農家のみならず流域住民の大きな不安となっています。また、ゲリラ豪雨等による湛水被害が多発している地域を対象とした、調整池や排水ポンプ等の整備も求められています。
- ・農林事務所では計画的にため池や排水ポンプ等の対策を推進します。



大雨時に流出水を貯留し、排水調整する調整池（磐田市西貝塚）

有効貯水量
1,207千m³

堤長 90m

堤高 31m



H28年度から県直轄管理となった
原野谷川農地防災ダム



堤体の耐震補強を実施しているため池
居沼池

持続可能な社会の実現に資す



▲手入れが行き届いた森林内を走るE-MTBツアー

「SDGs（持続可能な開発目標）」や「2050年カーボンニュートラル」など、持続可能な世界や脱炭素社会の実現を目指す動きが世界中で急速に高まっています。

中遠農林事務所では、森林の適正な整備・保全を通じ、地球温暖化の防止、生物多様性の保全、木材の生産などの森林の持つ多面的機能の発揮に貢献しています。

森林資源の循環利用を担う林業の成長産業化

中遠地域には、スギ、ヒノキ等の人工林が約16,800haあります。再生産可能な資源である木材の利用は、「経済」と「環境」が両立した循環型社会の実現に寄与します。

●主伐・再造林の推進

森林資源を継続的に利用するためには、「伐つ」「植えて」「育てる」の循環の輪の構築が必要です。

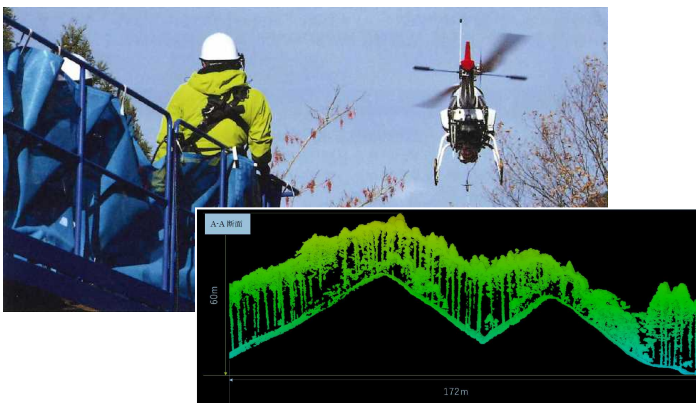
このため、森林整備補助事業を活用し主伐・再造林を進めています。



▲再造林の実施（掛川市黒俣）

●林業イノベーションの推進

林業においても、ICTやドローンといった先端技術を導入することで効率化や省力化、安全性の向上などを進める取組が広がっています。



▲無人ヘリによる森林レーザー計測（磐田市万瀬）

●林内路網の整備

効率的な森林整備や木材生産のため、林道、林業専用道、森林作業道の路網整備を行っています。

●県産材の利用推進

建築物等への県産材利用は、森林資源と地域経済の好循環につながるとともに、CO₂の貯蔵効果も期待できます。



▲林業専用道を利用した丸太搬出（掛川市原の平支線）



▲県産材を利用した木造駐輪場（御前崎市立浜岡中学校）

これからの森林・林業

森林の公益的機能の維持・増進

「治山事業」や「森の力再生事業」の実施を通

じ、森林の適正な整備・保全を図っています。

● 海岸の森林の保全

中遠地域の遠州灘海岸には、海岸線約40kmに沿って、マツを主体とした海岸林が生育し、飛砂、潮、津波などから私たちの生活を守っています。

しかし、近年、松くい虫や潮害により集団的に枯損が進み機能が低下したため、県と市が連携して海岸林の再生に取り組んでいます。また、松くい虫被害の拡大を防ぐため、「松くい虫防除事業」により、薬剤散布による予防や被害木の伐倒駆除によるまん延防止に努めています。



▲県と市が連携し枯損した海岸林を再生（袋井市湊）



▲松くい虫被害からマツを守る薬剤空中散布

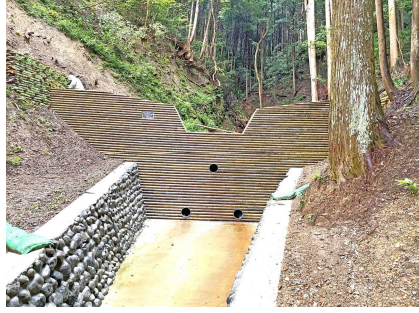
● 上流域の森林の保全

太田川上流や原野谷川上流などの森林は、水を育み、土砂の流出を抑える働きが期待されています。

こうした働きを高度に発揮させるため、「治山事業」により崩壊地の森林への復旧、溪流の保全、森林の健全化を推進しています。



▲崩壊地の復旧（森町三倉）



▲溪流の保全（森町橋）



▲健全な森林への誘導（掛川市萩間）

● 森の力の再生

森林所有者では克服できない荒廃森林を再生するために「森の力再生事業」を活用して、スギ、ヒノキの人工林の広葉樹との混交林化や、放置竹林の整備などを行っています。

竹林の整備（菊川市東横地）▶



社会全体で取り組む森林づくり

企業等の森づくり活動や森林環境教育の促進を通じ、森林についての理解促進を図っています。

また、森林認証制度や認証材の普及拡大を目指します。

● 企業による森づくりの促進

しずおか未来の森サポーター制度で企業による森づくり活動を応援しています。



▲しずおか未来の森サポーター締結式



▲植樹活動（掛川市沖之須）

● 森林認証制度の普及

管内のFSC認証林は年々拡大しており、県民への制度の普及を図っています。



▲FSCプロジェクト認証を取得した茶草場テラス（掛川市粟ヶ岳）

管内の主要指標

1 農家戸数

(単位：戸)

年次	項目	総農家	販売農家		自給的農家	
				割合		割合
平成 27 年(A)		11,177	6,556	58.7%	4,621	41.3%
令和 2 年(B)		8,846	4,642	52.5%	4,204	47.5%
増減(B)－(A)		△2,331	△1,914		△417	
(B)／(A)		79.1%	70.8%		91.0%	
県計(R2年)		50,736	24,426	48.1%	26,310	51.9%
対全県比		17.4%	19.0%		16.0%	

(資料：農林業センサス)

2 農業経営体数

(単位：経営体)

年次	農業経営体	法人経営	
			割合
平成 27 年(A)	6,722	133	2.0%
令和 2 年(B)	4,857	135	2.8%
増減(B)－(A)	△1,865	2	
(B)／(A)	72.3%	101.5%	
県計(R2年)	25,938	634	2.4%
対全県比	18.7%	21.3%	

(資料：農林業センサス)

3 耕地面積

(単位：ha)

年次	項目	耕地面積	田		畑	
				割合		割合
平成 27 年(A)		18,950	8,833	46.6%	10,120	53.4%
令和 2 年(B)		17,710	8,628	48.7%	9,082	51.3%
増減(B)－(A)		△1,240	△205		△1,038	
(B)／(A)		93.5%	97.7%		89.7%	
県計(R2年)		62,800	21,700	34.6%	41,100	65.4%
対全県比		28.2%	39.8%		22.1%	

※合計(耕地面積)は端数処理のため一致しない。(資料：関東農政局静岡地域センター)

4 農業産出額(平成 18 年が最後の調査、それ以降は農水省推計値)

(単位：千万円)

年次	区分	耕						種			合計	
		米	野菜	果実	花き	工芸農産物	茶	その他	小計	畜産		加工農産物
平成 27 年(A)		675	2,089	88	243	771	-	157	4,023	769	423	5,214
令和 2 年(B)		684	1,615	75	88	438	435	190	3,090	656	314	4,059
増減(B)－(A)		9	△474	△13	△155	△333	-	33	△933	△113	△109	△1,155
(B)／(A)		101.3%	77.3%	85.2%	36.2%	56.8%	-	121.0%	76.8%	85.3%	74.2%	77.8%
県計(R2年)		1,729	5,776	2,537	1,125	1,196	1,180	1,093	13,456	4,426	852	18,733
対全県比		39.6%	28.0%	3.0%	7.8%	36.6%	36.9%	17.4%	23.0%	14.8%	36.9%	21.7%

※合計は端数処理のため一致しない。(資料：関東農政局静岡地域センター・市町村別農業算出額(推計))

5 家畜の飼養状況

(単位：戸、頭・千羽・群)

区分	乳牛		肉牛		馬		豚		鶏(採卵鶏・種鶏)		鶏(ブロイラー)		みつばち	
	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	羽数	戸数	羽数	戸数	群数
平成28年(A)	45	1,969	23	4,086	14	147	23	26,759	26	1,429	6	57	73	539
令和3年(B)	35	2,539	21	3,378	14	131	23	24,646	22	1,525	5	47	71	532
増減(B)-(A)	△10	570	△2	△708	0	△16	0	△2,113	△4	96	△1	△10	△2	△7
(B)/(A)	77.8%	128.9%	91.3%	82.7%	100.0%	89.1%	100.0%	92.1%	84.6%	106.7%	83.3%	82.5%	97.3%	98.7%

※1：牛、豚、家きん類：家畜伝染病予防法に基づく定期報告に基づく。ただし、鶏(ブロイラー)羽数は年間出荷計画羽数からの推定値。

※2：みつばち：養蜂振興法に基づく蜜蜂飼育届に基づく。

※3：鶏については100羽以上飼育のみの集計。

6 林業経営体数調

(単位：経営体)

年次	項目	経営体数		保有山林面積規模別 林業経営体数		
		農林業	内林業	5ha未満	5ha以上 100ha未満	100ha以上
平成27年(A)		6,757	137	46	82	9
令和2年(B)		4,885	54	-	-	-
増減(B)-(A)		△1,872	△83	-	-	-
(B)/(A)		72.3%	39.4%	-	-	-
県計(令和2年)		26,337	837	-	-	-
対全県比		18.5%	6.5%	-	-	-

(資料：農林業センサス)

7 林業生産額

(単位：百万円)

区分	素材	きのこ等	合計
平成27年(A)	133	4,881	5,014
令和3年(B)	360	5,053	5,413
増減(B)-(A)	227	172	399
(B)/(A)	270.7%	103.5%	108.0%
県計(令和3年)	6,380	6,582	12,962
対全県比	5.6%	76.8%	41.8%

(県森林・林業統計要覧等から推計)

8 森林面積

(単位：ha)

区分	森林面積			人工林 (民有林)	森林率
	計	国有林	民有林		
平成27年(A)	29,533	1,154	28,379	16,827	35.5%
令和3年(B)	29,385	1,154	28,231	16,808	35.4%
増減(B)-(A)	△148	0	△148	△19	△0.1%
(B)/(A)	99.5%	100.0%	99.5%	99.9%	-

(資料：県森林・林業統計要覧)

中遠農林事務所管内図



事務所の所在地

本所	〒438-8558	磐田市見付3599-4 電話 (0538)37-2262
西部家畜保健衛生所 (家畜衛生課)	〒431-3111	浜松市東区中郡町392 電話 (053)434-2921

令和5年7月更新